

楽しく絵本を読もう！



読み聞かせ Q & A：

Q1. 読み聞かせをしてもちゃんと座って静かに聞いてくれません。

A1. 1～2 歳児は何にでも興味津々なので、注意が長くは続きません。絵本の場面にいろいろ指さしをしたり、ページをパラパラめくったりする時期です。絵本から注意がそれなくても、手をたたいたり、例えばすべり台ですべっている場面で自分も同じように動いたりします。それが 1～2 歳児ならではの、体を通して読むという行為を楽しんでいることだと言えます。そこを経て頭の中で想像できるようになるので、1～2 歳ではそういう時期だと思って付き合ってあげてください。なお、子どもが落ち着かないときには、クッションやまくらをひとつ置いてあげると、子どもが落ち着ける場所ができ、気持ちが安定するので静かに聞いてくれることがあります。

Q2. 読んでいる途中でどんどんページをめくってしまいますが…。

A2. 1～2 歳のころは、子どもがページをよく見ないでパラパラめくることが通して、次は何があるんだろうと予想を始める時期です。それは、始まりから終わりまで続いていくもの、という本の世界そのものを知る第一歩でもあります。まだ話の展開を楽しむことができないので、パラパラめくりもかまいません。様子を見ながら、ストーリーにこだわらず自由に話しかけてあげましょう。その際、擬態語や擬音語などのリズムカルな言葉をおもしろがる時期なので、意識して使うと楽しめます。また、「子ねこちゃんは木の上だね」「ここにはチョウチョがいたね」などと、子どもの指さしを言葉にしながら、場面ごとの楽しさを味わせてあげてください。

Q3. 「また？」と思うほど、同じ本ばかり「読んで読んで」とせがまれます。

A3. お気に入りの絵本ができると盛んに「読んで読んでとせがまれますね。そのときに大事なのはいやな顔をしないことです。また、ここは次が早く見たくてめくりたくなる場面、こっちはじっと見続けたい場面などと決まってくることが多いので、「この子はこの場面が好きなのかな」などと考えながらぜひ付き合って

ください。子どもは、大人では見落とすような絵の中の細かいところまでよく見えています。同じ本を見ていても、子どもが感じ取っていることは毎回違うでしょう。この時期は同じことを繰り返すことで観察力、推理力がよりはぐくまれていきます。1冊の本に十分満足した子はやがて違う本に興味が移っていくので、それまでは、じっくりと付き合ってください。

Q4. なめたり、かんだり、破いたりしてしまうのですが、どう教えたらいいですか？

A4. 子どもにとっては絵本もおもちゃと同じですから、この時期に絵本をなめたり、かんだり、破いたりするのはしかたないことです。子どもはなめたり、かんだりすることを通して情報収集をしています。おうちのかたが大切に扱ってあげれば、次第に「これは大切なものだ」と理解できるようになります。ただ安全性には注意を払って、印刷インクの安全性やなめたり、かじったりしても大丈夫な素材でできているものを与え、角が尖っていると危ないので、丸いものを選ぶという配慮が必要です。

Q5. 「1 歳から」と書いてあるものをその時期に与えても、うちの子は興味を示さないのですが…。

A5. 子どもによっては、年齢の目安にあったものをその時期に与えても興味を示さないことがあります。しかし、興味や発達子どもそれぞれですから、そこでがっかりすることはありません。子どもが興味を示したときがその絵本との出会いの最適期です。無理強いせず、少しずつでいいので読み聞かせを続けていきましょう。なお、1～2歳になっても、赤ちゃん絵本を読んであげて問題ありません。2歳になった子が0歳用の絵本を見ていても、2歳は2歳なりに見えていますから、その子なりの楽しみ方をしていればいいのです。

参考文献：「えほんばこ あけたら：えほんのつぼ：読み聞かせ Q&A」秋田喜代美 著

それでは、難聴児の場合はどのような点に気をつけて、お子さんが楽しむように絵本の読み聞かせをすればいいのでしょうか？

興味の持ち方などは基本的には健聴児と同じです！ 言葉や擬音語や擬態語などリズムカルな「音」を繰り返し聞かせていくことで、言葉や音を広げる良い機会となります。まずは、毎日1冊以上！楽しく絵本読みをしましょう♪





絵本の読み聞かせのポイント



🖍 その1: やりとりを楽しみましょう！

まずは、絵本選びから…。「これ（この本）にする？」「ノンタンがいいの？」「車の絵本にする？」「ママはこれ読んでみたいなあ」…A3.の回答のとおり、お子さんにはお気に入りの本がありますが、図書館などで、いつもと違う本にも興味を持たせることも大切です。お子さんの選んだものを1冊、ママや兄弟（姉妹）が選んだものをもう1冊。一日に2冊くらい読めるといいですね。大きいお兄ちゃんやお姉ちゃんが選ぶ本は少し難しいかもしれませんが、兄弟の気持ちも考え、上手に扱って欲しいと思います♪また、ページをめくる前に「みせて」「めくって」などの要求ことばも上手に誘っていきたいですね。絵本読みの前にお歌なども上手に取り入れましょう！

🖍 その2: 絵本の中で、上手に「聴こえ」を活用させましょう！

A3.の回答のとおり、繰り返すことで推理力がはぐくまれていきますが、2歳後半になると自分で推理することも楽しめるようになります。ページをめくる前に次のページに出てくる動物を想像させてみましょう。例えば、「あれー？次は何かな？ブーブーって鳴いているよ」「鼻が長い動物もいるよ」など、動物の鳴き声や特徴を視覚的に見る前に聴かせることで聴こえも活用することができます。

🖍 その3: いろいろな「音」を上手に聴かせましょう！

A5.の回答のとおり、年齢にこだわらず0歳児用の赤ちゃん絵本も上手に活用できます。赤ちゃん絵本には「パタパタ」「ラッタッタ」「コロコロ」など様々な擬音語・擬態語があふれています。親御さんが動作などをつけながら楽しく音を聴かせることで、お子さんも真似すれば、口まわりや舌を動かすのにも有効に使い、発声・発語の促進にもなります。

🖍 4: ストーリー性のある物は楽しく再現遊びをしてみましょう！

2歳後半になると、昔話：「ももたろう」や「こぶとりじいさん」などもだんだん楽しめるようになってきます。最初は文をそのまま読んでしまうと難しいかもしれませんが、親御さんが上手に分かりやすく言葉をかえて聴かせてあげると良いでしょう。絵本読みの後は、ぬいぐるみを使って遊んだり、劇遊びをしたり、再現遊びをすることで、イメージが膨らみ、絵本読みがさらに楽しいものになっていきます。